

# 2019年 1月1日よりゴルフ規則が改訂されます。

※ここでは要点のみの解説であり、すべての変更を記したものではありません。

## 1. 距離計測機器 (DMD) の使用

●距離計測機器 (DMD) の使用が認められます。ただし、高低差、風向きなど他のプレーに影響する要素は計測できません。  
DMD (距離計測機器の略 Distance Measuring Device)

## 2. 球の搜索時間が3分になります

●球の搜索時間が5分から3分に短縮されます。今後は紛失球が多くなりますが、ローカルルールでの紛失球の処理を利用してプレーのペースに役立ててください。  
※公式試合では暫定球が増えることになる。

## 3. 損傷クラブ

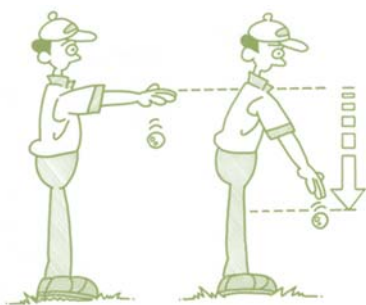
●損傷の原因、状態に関係なく (プレーヤーが怒って壊したとしても) 損傷したクラブの使用を続けることができる。また、その損傷がプレーヤーの責任ではない場合を除き、損傷クラブを取り替えることはできない。

## 4. キャディーの規則緩和

●新しい規則では、パッティンググリーンに球に限っては、キャディーがプレーヤーの承認を得なくてもマークして拾い上げることができます。

## 5. ドロップの方法が変わります

●現在は肩の高さからドロップしていますが、新規則では膝の高さからドロップすることになります。  
低い位置からドロップすることで、救済エリアの中に球を止めやすくなり、再ドロップなどの処置をすることを避けることができます。



## 6. 2度打ちしても罰はありません

●2度打ちした時の1打罰がなくなります。偶然、不可抗力で2度打ちしたことに罰を課す必要はありません。そのストロークを1打と数えるだけとなります。



## 7. 球が自分やキャディーに当たっても無罰

●ストロークした球が偶然にプレーヤー自身に当たってしまった、また自分のキャディーや用具に当たっても罰はありません。球はあるがままにプレーします。



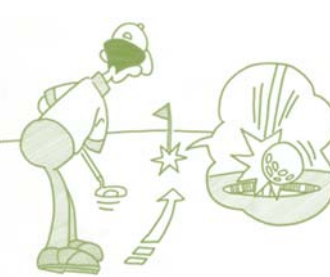
## 8. 球を動かしたことの罰の免除

●新規則では次の場合に球を動かしたことの罰が免除されます。  
○球を探しているときに自分の球を動かした場合。  
○パッティンググリーン上で偶然に動かした場合。  
○規則に基づいて球をマークする、拾い上げる、リプレイスするときに球を動かしてしまった場合。



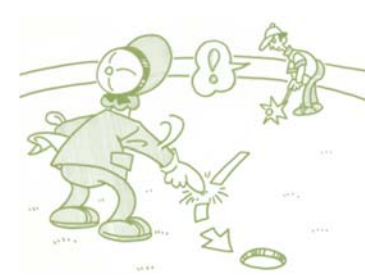
## 9. 旗竿を立てたままパットOK

●パットした球がホールに立てられている旗竿に当たっても罰はなく、球はあるがままにプレーします。(ホールインが認められる) この規則はロングパットの際に誰かが旗竿に付き添う時間の節約になります。



## 10. グリーン面に触れただけは無罰

●パットするときにそのプレーの線上のグリーン面に触れただけでは罰はありません。



例えばキャディーが狙い目を指で触れることも違反ではありません。ただし、改善をしたという事実があれば罰 (ストロークプレーでは2打罰) を受けることとなります。

## 11. グリーン上の損傷を修復可能に

●パッティンググリーン上の損傷箇所 (人、動物、乗り物等によって作られたもの) を修復することができます。



例えば、プレーの線上にあるスパイクマークも修復できるようになります。ただし、自然に窪んでいるところを平らにすることはできません。

## 12. キャディーは後方に立てません

●プレーヤーがスタンスをとった後にキャディーが後方に立つことを禁止しています。ストロークを行う前に離れたとしても罰 (ストロークプレーでは2打罰) を受けることとなります。



## 13. 地面に食い込んだ球

●「ジェネラルエリア」(スルーザグリーンに代わる新しい語) のどこでも地面に食い込んだ球を罰なしに救済を受けることができる。※ただしローカルルールで制限がある場合を除く。



## 14. バンカーのルースインペディメント

●球がバンカー内にある場合、ルースインペディメント (木の葉、石、などの自然物) を罰なしに取り除くことができます。



## 15. バンカー外へのドロップ可能に

●バンカーに球があるときに、アンプレアブルの追加の選択として、2打の罰を加えれば球とホールを結ぶ線上でバンカーの後方の外側にドロップすることができる。



## 16. ペナルティーエリアという新しい概念

●現在のウォーターハザードは水域だけを設定できます。新しいペナルティーエリアは水域だけでなく、委員会が1打の罰でラテラル救済を認めたい区域に設定できます。ペナルティーエリアは赤杭または赤線で区域を表示します。詳しくは裏面をご参照ください。

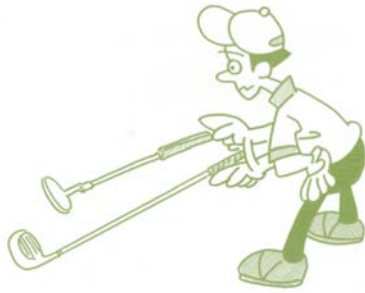
## 17. ペナルティーエリアでの規則緩和

●ペナルティーエリアの球があるがままにプレーすることができますし、ルースインペディメントを取り除くこともできる。つまり、ジェネラルエリアと同じ規則でプレーできることとなります。



## 18. 救済エリアを計測するクラブ

●1クラブレングスや2クラブレングスの救済エリアを計測するクラブはプレーヤーがそのラウンドのために持ち運んでいる最も長いクラブ (パターは除く) となります。



## 19. 救済を受ける時はマーカに告げなくてもよい

●新しい規則では救済処置をする場合にマーカに告げる必要はありません。これはプレーヤーの誠実さを信頼するゲームの原則を尊重しています。なお、暫定球をプレーする場合は、従来通り「暫定球をプレーします」と告げなければなりません。

## 20. 救済時はいつでも球の取り換えOK

●現在の規則では罰なしの救済 (例えばカート道路からの救済) では球を取り替えることができません。



新しい規則では、罰あり、罰なしに関係なく救済規則に基づいて拾い上げた球は別の球に取りかえることができます。